

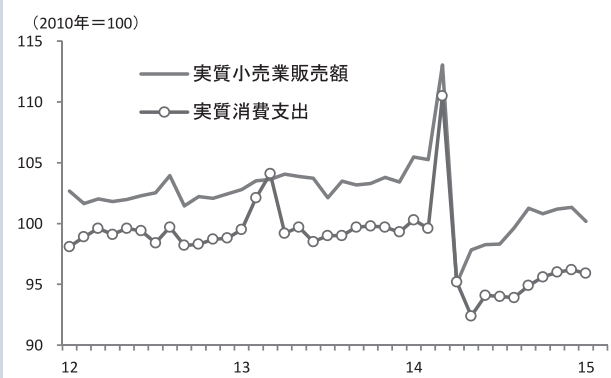
# 日本 ～生産、輸出が急増～

経済調査部 副主任エコノミスト 高橋 大輝(たかはし だいき)

## 個人消費の足取りは鈍い

2015年入り後も個人消費の足取りは鈍いものとなった。2015年1月の実質消費支出は前月比▲0.3%、実質小売業販売額(実質化、季節調整は筆者)が同▲1.1%とともに減少した。1月消費動向調査(内閣府)や12月消費者心理調査(日本リサーチ総合研究所)をみると、先行きの物価見通しはほとんど低下しておらず、物価上昇への不安がまだ払拭されないことが消費を抑制している可能性が示唆される。もっとも、先行きはベア実施企業の増加や賃上げ率の高まりなどを背景に賃金の増加が見込まれることに加えて、原油価格下落の恩恵が本格化してくることで、家計の購買力は上昇するとみられ、個人消費は徐々に明るさが増してくるとみている。

### 資料1 実質消費支出と実質小売業販売額(季節調整値)



(出所)総務省、経済産業省

(注)実質小売業販売額の実質化、季節調整は第一生命経済研究所

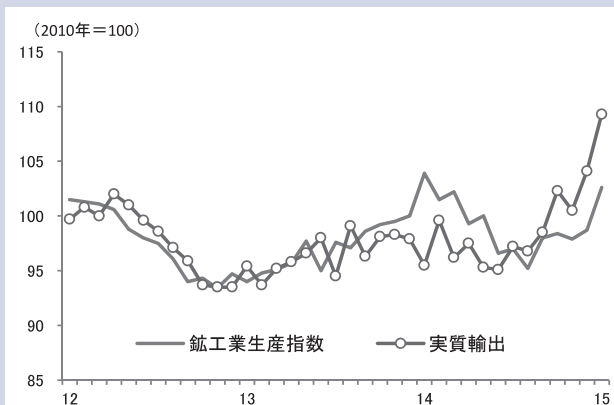
## 強かった生産、輸出

1月に強い結果となったのが生産と輸出だ。消費税率引き上げ後、もたつきがみられたが、1月の結果では力強さを取り戻しつつある様子が窺える。まず、2015年1月の鉱工業生産は前月比+4.0%と非常に高い伸びとなった。幅広い業種で改善している上、在庫調整が進捗している姿も窺えるなど内容も良好だった。また、2015年1月の貿易統計では、輸出金額が前年比+17.0%と2桁増となった。米国向けが力強い推移を維持する中、アジア向

け、EU向けもそれぞれ増加するなど、こちらも内容は良好で輸出の好調さが確認された。

生産、輸出はともに中華圏の春節による影響で強めの数値が出ている可能性があるが2月、3月が多少冴えない結果であったとしても1-3月期の前期比プラスは確保できそうだ。

### 資料2 鉱工業生産と実質輸出(季節調整値)



(出所)経済産業省、日本銀行

## 雇用は好調、賃金も上々

雇用と賃金は好調な推移が続いた。2015年1月の失業率は3.6%と2014年12月(3.4%)から悪化したものの、これは労働参加率が高まった面がある上、就業者数、雇用者数の好調さが途切れていないことを併せて考えれば内容は良好だ。雇用者数に先行する新規求人数も増加基調が続き、先行きの雇用者数の増加が示唆される。また、2015年1月毎月勤労統計によれば現金給与総額は前年比+1.3%と高めの伸びとなった。賃金の大部分を占める所定内給与の増加基調が維持されたほか、生産の低迷から軟調な推移となっていた所定外給与も明確な増加となるなど、バランスの取れた内容だ。

雇用や賃金が好調に推移する中、生産や輸出にも明るさが出てきた。あとは、日本のGDPの6割を占める個人消費の改善基調が鮮明になれば、力強い景気回復が実現するだろう。